

防衛大学校本科第48期、理工学研究科第39期及び総合安全保障研究科第4期学生入校式における防衛大学校長式辞
(平成12年4月5日)

本日、防衛大学校本科第48期568名、理工学研究科第39期69名及び総合安全保障研究科18名の諸君を迎え、入校式を挙げるに当たり、依田防衛総括政務次官^{注(1)}をはじめ、多数の来賓のご臨席をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。また、全国各地からご臨席をいただきましたご両親、ご家族の皆様に対しましても、御礼申し上げるとともに、お子様の栄えある入校を衷心よりお祝い申し上げる次第であります。



第7代学校長 西原 正

本校入校の新生諸君、諸君は多数の受験生の中からもめでたく難関を突破し、入校されました。ここに、在校の全職員、全学生とともに、大きな喜びをもって歓迎するものであります。「初心忘るべからず」と言います。本日の新鮮な緊張感と意気込みを、いつまでも忘れずに心にしまっておいて下さい。

また、モンゴル国からの2名、シンガポール共和国からの1名、タイ王国からの5名、ヴェトナム社会主義共和国からの2名に加え、本年より新たに本校で学ぶことになった大韓民国及びルーマニアからの留学生諸君に対しましても、祖国を離れ本校に学ぶ勇気と意欲を讃え、心から歓迎の意を表します。

さて、本日の入校に当たり、私は、特に、次の4点について諸君に要望いたします。

まず第一に、諸君各々が「自分は将来国を守る仕事につくのだ」という自覚と誇りをもって、向う4年間の学生生活を送ってほしいということです。本校には、将来「幹部自衛官」になる人材を養成するという明確な使命が法律によって与えられています。その意味で諸君は、一般の大学生とは身分が違っています。まず、このことを強調します。

第二に、諸君は、将来幹部自衛官となるべき人間として努力すること

注(1) 依田智治

はもちろんでありますが、同時にまた、一人間として、良き市民、立派な社会人、すなわち、本校建学の理念である「真の紳士・淑女にして真の武人」となるべく修練に心がけていただきたいのであります。

もとより、将来の幹部自衛官を育成する本校においては、全学生の規律正しい団体行動が学生生活の根幹をなしております。このため諸君は、入校と同時に全員校内の学生舎で4年間の団体生活を送り、先輩達と、あるいは同期生と日常的に生活を共にすることとなります。新入生諸君にとって、規律ある団体生活を営むということは、これまでの生活環境と異なることから、当初は戸惑いや困難を感じる者もいるかも知れませんが、しかし、諸君の先輩は、みなそれを克服してきたのであります。こうした体験は、諸君が将来多くの部下を指揮統率する幹部自衛官としてふさわしい資質を養成する上で、極めて大切であります。

諸君は、素直な気持ちでこの団体生活に飛び込み、その雰囲気にも馴染み、指導教官の指導の下、上級生の生活姿勢を見習い、そして自らそれを実践することによって正しい躰を身につけ、防衛大学校学生たるにふさわしい容姿、態度の持ち主となって下さい。この4年間の小原台の生活を通じ、幅広く、奥行きが深い、徳操豊かな人間の形成に努められるよう、諸君の積極的な向上心の発揮に強く期待します。

第三に、諸君には、学生として学問の研鑽に大いに励んでいただきたいのであります。今日、いずれの先進諸国においても、その士官候補生教育は、一般大学レベル以上の知的水準の達成をその目標としております。我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系及び人文社会科学系の高等教育を基幹に、それにあわせて本校独特の防衛学教育を加えるなど、他にみられない充実した教育内容を有しております。この度、授業科目の大幅な再編成を行いましたので、本年度よりさらに充実した教育を実施します。防衛大学校の教育方針に、「広い視野を開き科学的思考力を養う」とありますが、厳しい内外の状況の変化に的確に対応できる優れた幹部自衛官となるためには、人文・社会、自然科学の各分野にまたがる幅広い学識と視野を身につけ、豊かな創造力、国際感覚の持ち主でなければ通用しない時代となっていることを銘記すべきであります。

諸君のこれからの勉学は、今後、幹部自衛官としての生涯をかけて、行わなければならない研鑽の第一歩であります。これからの4年間、幹部自衛官として必要な学力・技能を修得するとともに、単に知識を吸収するだけでなく、常に自ら問題を発見し、その解決策を考える生きた学

問の研鑽に努め、将来の大成を期すことを切望します。

第四に、諸君は、将来の幹部自衛官に求められる基礎的な訓練に励むとともに、体力、気力の錬成に大いに励んでいただきたい。言うまでもなく、幹部自衛官たる者は、いかに知力が優れていても、強健な体力と旺盛な気力がなければ、困難な状況下にあつて、冷静な判断力、沈着な行動力、優れた統率力を発揮することはできません。一般大学と異なり、本校において訓練や体育が特に重視される所似であります。

防衛大学校は、教育方針の一つとして、学生全員が参加する校友会活動を奨励しており、数多くの運動部や文化部があります。諸君は、これら各部の活動に積極的に参加し、心身を鍛え、豊かな情操を養い、立派な幹部自衛官としての素地を養っていただきたいと思ひます。これらの活動を通じ、小原台で流した青春の汗と涙は、必ずや先輩後輩、同期生の絆を固め、豊かな人間関係を育み、生涯忘れがたい思い出となるでしょう。

次に、理工学研究科及び総合安全保障研究科に入校された諸君に申し上げます。この中には、理工学研究科学生としてインドネシア共和国から1名、モンゴル国から1名、大韓民国から1名、タイ王国から5名、ヴェトナム社会主義共和国から1名が、また総合安全保障研究科学生として大韓民国から2名及び他省庁から1名が含まれておりますが、これら諸君が、この度、特に選抜されて、本校の研究科において先端技術ないし安全保障に係る高度の理論、研究方法の修得に専念する機会を与えられたことを心からお慶び申し上げます。

ご承知のとおり、現在世界の各国は、競って科学技術の向上を図り、防衛力の近代化に努めており、科学技術の立ち遅れが国家の安全保障に由々しき影響を及ぼすといつても過言ではありません。それ故、今後の防衛関連の科学技術の向上は極めて重要であり、理工学研究科に学ぶ諸君の若く明晰な頭脳に期待するところは大きいのであります。

また一方、21世紀を目前にした今日、我が国は安全保障の在り方を多角的、学際的、総合的に分析し、政策課題に取り組むことができる人材の育成が強く求められております。総合安全保障研究科は、まさにこうした国家的要請に応えるため、平成9年に開講したものであり、同研究科の4期生として入校された諸君は、先輩達に続き、研究科の成果を世に示すべく励んでいただきたいのであります。

時あたかも桜花爛漫たる春の季節を迎え、遠く白雪に輝く富士を望み、太平の青き海原を眼下にするこの小原台にあつて、祖国防衛という崇高

にして重く尊い使命に向けて、まさに第一歩を踏み出さんとする諸君の
これからの健闘を心より祈り、私の式辞といたします。

諸君、入校おめでとう。